



渡邊眞幸 天神イムズ常務

東京都出身。1967年4月7日生まれの49歳。早稲田大学政治経済学部卒業後、90年に三菱地所に入社。趣味は奥さんとの家庭菜園



撮影協力 SUITO FUKUOKA

「お客さん同士の距離が近いからすぐ仲良くなれる。そうそう、日本紙飛行機協会の人との出会いは面白かった。滞空時間が長い紙飛行機を作る人なんだって。『ぜひ、イムズのらせんエスカレーターが一番上から飛ばすイベントをやりましょうよ！』って言われてね。一緒に仕事できれば嬉しいし、やっぱりこの場所でお出会う人は面白い人ばかり。改めて勉強になることが多く、まるで異文化体験しているみたいだよ」

「昨年、特別な人との席にも使ったという渡邊さん。その「特別な人」で上げたのが、早稲田実業・高等部時代に3年間お世話になった恩師と同級生。学び舎を卒業して30年が経つが、今でも交友が深く関係で毎年会を開いている。「その日は8人が集まった。青春時代苦楽をともにした仲間を自分流でもてなし、思い出話を花を咲かせた」と笑顔で振り返った。

## 教えたい隠れ家があってもいい

福岡の都心部今泉にある一見薄暗く何の変哲もないビルの中に、知る人ぞ知る料亭がある。「SUITO FUKUOKA」。本来ここは外国人向け観光案内・日本文化体験施設。外観では和の雰囲気はうかがえないが、入り口を開けば着物を身にまとった外国人スタッフの姿が。さらに奥へ進むと、まるで秘境のような抛り所になっている。通常予約制で、メニュー表は用意されていない。いつもお客さんの予算、食べたいものを事前に聞き、地元の新鮮な魚、旬の素材、地酒を振る舞う。

この隠れ家で今日も常連客の一人が酒を飲みながら語らいを楽しんでいる。男性の名は渡邊眞幸。商業施設・天神イムズの常務取締役を務めており、3年前に福岡へやってきた。早稲田大学を卒業後、90年に三菱地所に入社。長年、東京の玄関口・丸の内ブランドインングに携わる。超高層ビルの中に世界的なブランドショップが並び、ビジネス、観光にと世界中から多くの人が訪れるあの街を造り上げてきた。そんな渡邊さんが福岡の抛り所として惚れ込んでいる。

「大将が食材をさばくカウンタ―と客の間、初めて出会う人との距離感が近くなる空間、居心地